

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (刑法学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	刑法理論の探求
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生各々が興味と関心をもった刑法学上の論点・テーマについて検討し、ゼミナール論文としてまとめることができる。 ・ゼミ論文の準備ができる。 ・刑法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地をつくる。
ゼミの概要	<p>本ゼミナールは、ゼミナールⅡの延長線上として、学生主体の研究活動を主とする。ゼミナールⅡでは、判例・裁判例を中心とした報告・検討であったが、ここでは、主要な学説にも言及し、総合的な報告・検討を行う。最終的にはゼミ論文の完成を目指す。ただし、後述の授業計画は、学生の理解度、履修状況により変更されることがある。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象（特に、法律問題・犯罪現象）に関心をもつこと。 ・指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと（1.5時間程度）。 ・各々設定したテーマに関する判例・学説を、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと(最低1.5時間程度)。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールのルールを遵守できること（例として、報告・発表の遵守、日頃からゼミメンバー同士・秋山とコミュニケーションがとれる、ゼミ行事の参加などのゼミ運営への協力、詳細はゼミにて説明する）。 ・必要な予習、復習を必ずし、最終的にゼミ論文を完成させること。論文としての体裁を維持できるものは学生論文コンクールに応募すること。 ・刑事法学に興味と関心をもっている。 ・刑事法関連科目が履修済みであること。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。
テキスト	学生のテーマに従って、適宜指示・紹介する。
参考文献・資料	例えば、大塚仁・河上和雄他編 大コンメンタール刑法〔第3版〕1巻～ 青林書院、西田典之、山口厚他編 注釈刑法〔第2版〕1巻～ 有斐閣、前田雅英他編 条解刑法〔第3版〕弘文堂、その他学生のテーマに従って、適宜指示する。
成績評価の方法	定期試験40%、報告・発表、姿勢60%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	原則として、火曜日9:00～10:30、水曜日14:40～16:10、 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ・平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミ論文の執筆は、学生生活の集大成といっても過言ではありません。これを完遂するよう集中して取り組んでいきましょう。また、継続的にゼミでの交流を大切にしていきたいと思っております。

授業計画			
第1回	ガイダンス、学生のテーマの設定の確認	第17回	各々のテーマについて学生個別報告・検討③-1
第2回	各々のテーマについて学生個別報告・検討①-1	第18回	〃 ③-2
第3回	〃 ①-2	第19回	〃 ③-3
第4回	〃 ①-3	第20回	〃 ③-4
第5回	〃 ①-4	第21回	〃 ③-5
第6回	〃 ①-5	第22回	〃 ③-6
第7回	〃 ①-6	第23回	フィードバック③
第8回	フィードバック①	第24回	各々のテーマについて学生個別報告・検討④-1
第9回	各々のテーマについて学生個別報告・検討②-1	第25回	〃 ④-2
第10回	〃 ②-2	第26回	〃 ④-3
第11回	〃 ②-3	第27回	〃 ④-4
第12回	〃 ②-4	第28回	〃 ④-5
第13回	〃 ②-5	第29回	〃 ④-6
第14回	〃 ②-6	第30回	ゼミ論文の提出と補正作業
第15回	〃 ②-7	第31回	論文の補正作業の確認とフィードバック④ 最終提出
第16回	フィードバック②	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	李 廷珉 (い ちょんみん)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	就職活動と卒業論文の指導				
ゼミの到達目標	就職活動の成功と卒業論文の完成				
ゼミの概要	<p>独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査によれば、進路が決まらないまま卒業する学生、つまり週活に失敗した学生の特徴として、「就職活動のスタートが遅い」「自分の意見をうまく表現できない」「教員や職員にほとんど相談しない」「何をしたらよいか分からない」など、多く理由があげられている。</p> <p>4年生にとっては、当たり前すぎてつまらないかもしれないが、大学での学びは、高等学校とは違って主体性と積極性が必要である。これは就職活動においても、全く同様で、自ら行動を起こせない学生はスタートから出遅れたまま、選考試験を受ける時期になっても、うまく対応できず、結局内定のないまま卒業を迎える。</p> <p>就職活動に成功するためには、何はともあれ、早く始めることである。ただ、このことは3年生になって直ぐに企業研究や適性検査の対策をするという就職活動ノウハウだけを意味するものではない。1年生、2年生の段階から、将来社会に出て働くことを念頭におき、学生時代を送ることが必要であるということである。</p> <p>また、インターネットからの情報だけに頼り、就職活動を乗り越えようとするのも間違いである。なぜならば、ネット情報をすべて鵜呑みにして方向を間違ってしまう場合も多く、そのような学生は困難に直面しても誰にも相談せず、自分だけで抱え込み、状況をさらに悪化させてしまう傾向があるからである。</p> <p>人と面と向かって話し合ったり、相談したりすることによって、初めて気付くことや乗り越えられることがあるということを忘れてはならない。</p>				
授業時間外の学習	<p>1. 日頃から新聞とその他の経済紙に目をとおすようにしておくこと。</p> <p>2. 経済・経営専門書だけではなく、文学・哲学・歴史・宗教・生物などの科学関連書を1冊だけ選び、時間をかけてじっくり読んでおくこと。</p>				
履修条件	経済学と経営学の入門科目、そしてコンピューター入門科目の単位の履修が必要。				
テキスト	ロナルド・ドーア『働くということーグローバル化と労働の新しい意味』中公新書、2005年。 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年。				
参考文献・資料	新聞各紙、経済雑誌、経済統計など				
成績評価の方法	受講状態により判断するが、次の2つの目標の達成程度を勘案する。すなわち、履修目標と到達目標の2点である。履修目標とは授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標であり、到達目標とは授業において最低限学生が身につける内容を示す目標である。				
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00~14:30				
成績評価基準	秀	優	良	可	不可
	履修目標を超えたレベルを達成している。	履修目標を達成している。	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している。	到達目標を達成している。	到達目標を達成できていない。

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>「なぜ働くのか、なぜ就職するのか」—この問いに答えを見つけれない学生は、就職活動を成功させることは困難です。大学進学の際には、「親の進め」「周囲が進学するから」などという理由もあったでしょうが、就職では働く目的を明確にしないままに就職活動を進めると、選考試験でつまづいてしまいます。途中で、「そもそもどうして働かなければならないのか」といった疑問にとらわれ、挫折してしまうことになります。</p> <p>働く理由は「夢をかなえるため」「生活のため」「お金持ちになるため」など、何でもよいでしょう。明確な目標があれば今何をなすべきかが自ずと分かるようになるでしょう。</p> <p>普段より、こうした点を意識しつつ、働くことの意義について考えることが必要です。</p>
----------------------	--

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (行動科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法や社会調査の方法を理解し、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、報告会で発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最終的には執筆した論文を報告会で発表する。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと。なお、夏季休暇中に調査活動を行いデータを採取する予定である。
履修条件	下記のいずれかの要件を満たすこと。 1. 3年次までに「生涯学習」または「地域フィールドワーク」を修得しているもの。 2. 本年度に教育実習を行うもの。 なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認めない。
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001. 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会, 2012. その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業論文 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 卒業論文を提出しないものには単位の修得を認めない。 ・出席回数が規定に満たない場合は定期試験を受験することができない。
オフィスアワー	① 毎週火曜 10:40~12:10 ② 毎週金曜 10:40~12:10
成績評価基準	【平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生】 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下) 【平成 28 (2016) 年度以前に入学した学生】 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	データの整理
第2回	研究の成立する要件	第18回	データ入力
第3回	問題意識の明確化	第19回	データ分析
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究ノートの作成① (構成)
第5回	研究テーマの報告会① (第1グループ)	第21回	研究ノートの作成② (各章の内容)
第6回	研究テーマの報告会② (第2グループ)	第22回	中間報告会① (第1グループ)
第7回	研究計画の策定① (仮説の設定)	第23回	中間報告会② (第2グループ)
第8回	研究計画の策定② (研究方法の選択)	第24回	中間報告会③ (第3グループ)
第9回	研究計画の策定③ (先行研究)	第25回	卒業論文の執筆① (文章の表現)
第10回	研究計画の策定④ (計画の適切性)	第26回	卒業論文の執筆② (図表の整理)
第11回	研究計画の報告会① (第1グループ)	第27回	卒業論文の執筆③ (専門用語)
第12回	研究計画の報告会② (第2グループ)	第28回	卒業論文の執筆④ (注・引用文献)
第13回	研究計画書の作成	第29回	卒業論文報告① (第1グループ)
第14回	研究のマナー	第30回	卒業論文報告② (第2グループ)
第15回	事前調査の実施	第31回	卒業論文報告③ (第3グループ)
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（観光学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2時限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	観光学を卒業後の進路に応用する
ゼミの概要	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、社会全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。ところで、外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？その部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p> <p>これまでにさまざまな講義やインターンシップなどの実習から学んだ観光学について、さらに実践的かつ深く学ぶのがこの「観光学ゼミナール」のテーマです。ですから、観光学ゼミナールでは、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで、卒業後の進路に応用するためのさまざまなツーリズムの研究を1年かけて行います。観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
ゼミの到達目標	観光学を卒業後に「観光のプロフェッショナル」として応用する方法を理解し、「観光とは何か」を説明できるようになる。
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること、または今年度履修すること。 2. 観光のプロフェッショナルを目指し、観光学を学ぶ意欲があること。 3. 無断欠席しないこと。
テキスト	山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年(観光論入門Ⅰで使用したテキスト)
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・平常点(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)
オフィスアワー	毎週月曜日2時限(10:40～12:10) 毎週金曜日3時限(13:00～14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ！」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。</p> <p>その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。ゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第18回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の復習1	第19回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の復習2	第20回	観光学の学術研究2-1
第5回	観光学の復習3	第21回	観光学の学術研究2-2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第22回	観光学の学術研究2-3
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第23回	観光学の学術研究2-4
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第24回	ふりかえりⅢ
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第25回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	ふりかえりⅠ	第26回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光学の学術研究1-1	第27回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光学の学術研究1-2	第28回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光学の学術研究1-3	第29回	研究発表Ⅰ
第14回	観光学の学術研究1-4	第30回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第31回	ふりかえりⅢ・反省会
第16回	前期試験	第32回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ(刑事法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	刑事法の重要問題を研究する
ゼミの到達目標	本ゼミナールでは、ゼミナールⅡで完成させたゼミレポートを発展させて、ゼミ論文としてまとめあげてもらいます(成績評価の方法を確認すること)。ただ、3年後期に開講される刑事政策を履修して、刑事政策や少年司法に関心をもった学生が出てくることは十分に想定されますので、必ずしもゼミレポートで選択したテーマでのゼミ論文完成に拘束されることはないと思います。しかしながら、その場合には、これまで学んできたことをしっかりと活かして、完成までのロードマップを早めに作りあげることが重要になります。
ゼミの概要	他者の批判に耐えうる質・量を備えたゼミ論文の完成
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ論文完成に向けた準備をすること。(240分) 計画的に執筆を進めること。
履修条件	刑法入門・刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・刑事政策の単位を修得済みであること。 なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。
テキスト	受講者が使用している基本書など
参考文献・資料	中山研一ほか『レヴィジオン刑法1・2・3』成文堂(1997・2002・2009);山口厚『問題探究 刑法総論・刑法各論』有斐閣(1998・1999);山口厚ほか『理論刑法学の最前線Ⅰ・Ⅱ』岩波書店(2001・2006);西田典之ほか『注釈刑法 第1・2巻』有斐閣(2010・2016);高橋則夫ほか『日高義博先生古稀祝賀論文集 上巻・下巻』成文堂(いずれも2018);酒巻匡ほか『井上正仁先生古稀祝賀論文集』有斐閣(2019);伊東研祐ほか『リーディングス刑法』法律文化社(2015);川崎英明ほか『リーディングス刑事訴訟法』法律文化社(2016);朴元奎ほか『リーディングス刑事政策』法律文化社(2016)
成績評価の方法	ゼミ論文50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20% ※ゼミ論文については、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低10枚以上のものの提出を求める予定です。また、公開の場での報告会を予定しています。
オフィスアワー	月曜日14:40~16:10;水曜日14:40~16:10
成績評価基準	平成28年度(2016年)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015年)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な参加(発言)を期待しています。また、これも当然のことを述べることにはなりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めないことがあります)。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	第3回報告①
第2回	第1回報告①	第18回	第3回報告②
第3回	第1回報告②	第19回	第3回報告③
第4回	第1回報告③	第20回	第3回報告④
第5回	第1回報告④	第21回	第3回報告⑤
第6回	第1回報告⑤	第22回	第3回報告⑥
第7回	第1回報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回報告①
第9回	第2回報告①	第25回	第4回報告②
第10回	第2回報告②	第26回	第4回報告③
第11回	第2回報告③	第27回	第4回報告④
第12回	第2回報告④	第28回	第4回報告⑤
第13回	第2回報告⑤	第29回	第4回報告⑥
第14回	第2回報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民事訴訟法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	川口 誠		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	民事訴訟制度に関するさらなる理解、手続法の考え方のさらなる理解を得る
ゼミの到達目標	民事訴訟制度を含む民事紛争解決制度の全体像をを理解できるようになる。
ゼミの概要	民事の紛争解決制度全体の基本的理解、相互の連関の理解を基礎に、民事訴訟制度自体の理解と民事訴訟制度のあるべき姿を考えることが、ゼミの目的です。 「民事訴訟法判例百選」（有斐閣）をテキストに、ゼミ員の当番制でそれぞれの担当の判例を調査し報告してもらいます。それを基に議論し、さらに関連事項を議論して、より深い民事訴訟制度の理解を目指します。
授業時間外の学習	民事訴訟法の基本書を繰り返し精読しておくこと。毎回の報告テーマについて、基本書の該当箇所の復習（1.5時間程度）とテキストの判例を通読しておくこと（1.5時間程度）。
履修条件	民法（特に財産法）、民事訴訟法の単位取得済みであること。 欠席しないこと。必ず電話、メールが届く、つまり連絡がとれるようにすること（携帯の変更の際は、番号、メールアドレスを必ず連絡すること）。
テキスト	『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、別冊ジュリスト）。
参考文献・資料	適宜指摘します。またプリントも配布します
成績評価の方法	報告60%、期末試験20%に、授業参加・態度（質疑応答、議論参加など）20%で、総合評価。出席回数が規定に満たない場合および授業料等が未納の場合は、試験を受験できません。
オフィスアワー	毎週月曜・木曜14：40～16：10。この他、研究室にいるときはいつでも声を掛けて下さい。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ※平成28年度以降の入学生
学生へのメッセージ	最低限、自分の担当テーマの調査、勉強は責任感をもってすること。報告が誤っていると、他のゼミ員に誤った情報を提供することになります。また、自分の担当テーマだけではなく、他のゼミ員の報告に、積極的に議論参加できるように、毎回のテーマについてしっかり予習してください。 勉強以外のゼミのイベント（大学祭、懇親会など）に積極的に関わってください。アクティブな人がたくさんいるほどゼミは活発に、また楽しくなります。勉強と勉強以外のことを一緒に協力してすることの中から、お互いに信頼できる友人が見つかると思います。 ゼミが勉学の切磋琢磨の場となるだけでなく、ゼミを通じてゼミ員相互の信頼を深め、卒業後も連絡を取り合う仲間を見つける場、機会となることができればと思います。

授業計画			
第1回	ガイダンス（第1回ゼミ体験）	第17回	口頭弁論の再開
第2回	ガイダンス（第2回ゼミ体験）	第18回	攻撃防御方法の提出と信義則
第3回	訴訟と非訟 — 夫婦同居の審判	第19回	当事者からの主張の要否(1) — 所有権喪失事由
第4回	移送 — 裁量移送の要件	第20回	相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述
第5回	忌避事由	第21回	裁判所の釈明義務
第6回	氏名冒用訴訟	第22回	訴訟上の証明 — ルンバール事件
第7回	民法上の組合の当事者能力	第23回	過失の一応の推定
第8回	法定訴訟担当 — 遺言執行者	第24回	証明妨害
第9回	訴訟代理人の代理権の範囲	第25回	証明責任の分配
第10回	将来給付の訴え — 大阪国際空港事件	第26回	文書提出命令(1) — 自己専利用文書
第11回	遺言者生存中に提起された遺言無効確認の訴え	第27回	診療録の証拠保全の要件
第12回	債務不存在確認訴訟の訴えの利益	第28回	既判力の時的限界(2) — 建物買取請求権
第13回	訴権の濫用	第29回	一部請求後の残部請求
第14回	訴えの交換的変更	第30回	口頭弁論終結後の承継人
第15回	境界確定の訴え	第31回	定期試験
第16回	重複する訴え — 債務不存在確認請求と手形訴訟		

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (財務会計・国際会計論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	財務会計について会社法計算規則・金融商品取引法を中心に考える。
ゼミの到達目標	財務会計に関連する本を読み、毎回、担当者を決めて報告・質疑応答・議論をする。
ゼミの概要	大会社の会計を理解する。
授業時間外の学習	資格試験に挑戦してほしい。
履修条件	欠席しないこと。
テキスト	随時指示していく。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・出欠・学習姿勢・テスト等を参考に総合的に評価する。
オフィスアワー	水曜日5時間目
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	近年、学生諸君の学習姿勢を見ていると楽をしようという方向に進んでいるように見えます。自分の目指す目標に到達するためには努力なしには到達できません。目標に一歩でも近づけるように日々精進してください。このような学習姿勢を評価したいと考えています。

授業計画			
第1回	自己紹介・ゼミの進め方	第17回	第8章有形固定資産と減価償却(1) 資産
第2回	第1章財務会計の機能と制度(1) 会計の意義	第18回	第8章有形固定資産と減価償却(2) 減価償却
第3回	第1章財務会計の機能と制度(2) 会計の機能	第19回	第9章無形固定資産と繰延資産(1) 知的財産
第4回	第2章利益計算の仕組み(1) 簿記の構造	第20回	第9章無形固定資産と繰延資産(2) 繰延資産
第5回	第2章利益計算の仕組み(2) 財務諸表	第21回	第10章負債(1) 範囲と区分
第6回	第3章会計理論と会計基準(1) 会計基準の設定	第22回	第10章負債(2) 引当金
第7回	第3章会計理論と会計基準(2) 一般原則	第23回	第11章株主資本と純資産(1) 構成
第8回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(1) 発生主義	第24回	第11章株主資本と純資産(2) 組織再編
第9回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(2) 資産評価	第25回	第12章財務諸表の作成と公開(1) 体系
第10回	第5章現金預金と有価証券(1) 現金と預金	第26回	第12章財務諸表の作成と公開(2) P/LとB/S
第11回	第5章現金預金と有価証券(2) 有価証券	第27回	第13章連結財務諸表(1) 公表制度
第12回	第6章売上高と売上債権(1) 収益認識基準	第28回	第13章連結財務諸表(2) 一般原則
第13回	第6章売上高と売上債権(2) 販売基準・生産基準	第29回	第13章連結財務諸表(3) 一般基準
第14回	第7章棚卸資産と売上原価(1) 範囲と区分	第30回	第14章外貨建取引等の換算(1) 国際化と会計
第15回	第7章棚卸資産と売上原価(2) 取得原価	第31回	第14章外貨建取引等の換算(2) 外貨建取引
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (国際経済学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	坂元 浩一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	国際経済を総合的に学ぶ。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界経済、日本を含む主要国の経済を分析することができます。 2. 経済取引の全体と主な活動(貿易と投資など)を十分に理解できるようになります。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。
ゼミの概要	本ゼミナールでは、各自が関心を持つテーマに関する卒業論文を作成していきます。テーマの範囲は、原則、経済学部専門科目とします。 追加的に、担当教員の専門分野であるマクロ経済学や国際経済学の基礎は学んでもらいます。また、経済の構成要素である企業や産業について、日本企業を含む多国籍企業の投資行動や経営についても学びます。 講義形式は、卒業論文に関する発表と教員のプレゼンとなります。積極的に、ゼミ員間の懇親の機会を作ります。
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度) 卒論に関する発表に向けた準備では、より多くの時間を割く必要があります。
履修条件	ミクロ経済学、マクロ経済学、そして国際経済学(坂元担当)を履修していることが望ましいです。未履修の場合、これらの学問分野を自習しながら、本授業を受けてください。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総合理解から次の一歩まで—』(電子書籍)大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。
成績評価の方法	【レポート(50%)、発表・試験(50%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30~16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると思います。

授業計画			
第1回	自己紹介・ゼミの進め方	第17回	卒業論文 現地調査結果の発表 (学生グループ1)
第2回	卒業論文 研究の進め方	第18回	卒業論文 現地調査結果の発表 (学生グループ2)
第3回	卒業論文 研究計画の作成方法	第19回	卒業論文 現地調査結果の発表 (学生グループ3)
第4回	卒業論文 研究計画の発表 (学生グループ1)	第20回	ディベート大会Ⅰの準備
第5回	卒業論文 研究計画の発表 (学生グループ2)	第21回	ディベート大会Ⅰ グループ・リーグ
第6回	卒業論文 研究計画の発表 (学生グループ3)	第22回	ディベート大会Ⅰ 準決勝、決勝
第7回	卒業論文 修正研究計画の発表 (学生グループ1)	第23回	ディベート大会Ⅱの準備
第8回	卒業論文 修正研究計画の発表 (学生グループ2)	第24回	ディベート大会Ⅱ グループ・リーグ
第9回	卒業論文 修正研究計画の発表 (学生グループ3)	第25回	ディベート大会Ⅱ 準決勝、決勝
第10回	卒業論文 関連するテーマのプレゼン	第26回	卒業論文 研究結果の発表 (学生グループ1)
第11回	卒業論文 分析方法のプレゼン	第27回	卒業論文 研究結果の発表 (学生グループ2)
第12回	卒業論文 文献調査結果の発表 (学生グループ1)	第28回	卒業論文 研究結果の発表 (学生グループ3)
第13回	卒業論文 文献調査結果の発表 (学生グループ2)	第29回	卒業論文 最終結果の発表 (学生グループ1)
第14回	卒業論文 文献調査結果の発表 (学生グループ3)	第30回	卒業論文 最終結果の発表 (学生グループ2)
第15回	卒業論文 フィールド (現地) 調査計画の発表	第31回	卒業論文 最終結果の発表 (学生グループ3)
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	安全保障の重要問題を研究する。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件 (住民・領土・政府・外交能力) を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本 (専守防衛)、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障政策について自己の意見を述べるができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 <p>(予習 2時間程度、復習2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 統治機構または政治学の単位を修得済みであること。 2 討議に参加できること。 3 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであるか、国際法の単位を修得済みであることが望ましい。
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書 (平成 30 年度版)、外交青書 (平成 30 年度版)、田村重信等『日本の防衛法制』(内外出版)、同『日本の防衛政策』(内外出版)、森本敏『日本の安全保障』(実務教育出版)、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、防衛研究所編『東アジア戦略概観 2018』(the Japan times)
成績評価の方法	授業への参加状況 (報告・質疑応答など) 50%、レポート 50%
オフィスアワー	月曜日 09:00~10:30・水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	<p>平成28年度 (2016) 以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度 (2015) 以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>

<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>
------------------------------	---

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	第1回報告③
第2回	面接 国家の成立要件、領域、領土（領土問題含む。）	第18回	第1回報告④
第3回	防衛政策の基本	第19回	第1回報告⑤
第4回	防衛政策の方針、政策決定機関	第20回	トピック・まとめ
第5回	緊急事態対処、武力攻撃対処に関する法体系	第21回	第2回報告①
第6回	国民保護法	第22回	第2回報告②
第7回	国際連合の主要機関及び役割	第23回	第2回報告③
第8回	紛争の平和的解決手段	第24回	トピック①
第9回	地域的安全保障体制	第25回	第2回報告④
第10回	国際平和協力活動	第26回	第2回報告⑤
第11回	まとめ①	第27回	まとめ③
第12回	課題研究テーマの発表	第28回	トピック②
第13回	第1回報告①	第29回	講評
第14回	地域的安全保障体制	第30回	全体のまとめ
第15回	国際平和協力活動	第31回	レポート講評
第16回	前期のまとめ		

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (憲法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 寛稔		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	憲法判例研究
ゼミの到達目標	憲法学の主要判例についてその法的論点に即した議論ができる。
ゼミの概要	憲法学の主要判例の研究をします。標準的な教科書や判例用教材に掲載されているような法学部生であれば誰もが知っているべき判例を扱います。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表者は資料収集・レジュメの作成・発表の練習に10時間以上程度かけること 2. 発表者以外の人も議論や質問ができるよう教科書を熟読すること (1.5時間) 3. ゼミで勉強したことについて問題演習をすること (1.0時間程度)
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> ①憲法入門の単位を修得済みであること。 ②担当教員から電話等があった場合には必ず反応すること。 ③就職活動状況等近況報告を担当教員にすること。 ④ゼミのメンバー構成がいかなるものになろうとゼミ生同士みんなと仲良くすること。 ⑤常に整容を心がけること。
テキスト	<p>芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 (第7版)』(岩波書店 2018年)</p> <p>*第6版を持っている方は新規に購入する必要はありません。</p>
参考文献・資料	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	月曜日1限、火曜日2限
成績評価基準	<p>【討論への参加などゼミへの貢献度40%、発表20%、定期試験20%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・上記の「履修条件」を満たしていない学生が履修した場合の成績は「評価なし」とします。
学生へのメッセージ	<p>憲法は国の最高法規であり、皆さんが享受している自由の基礎になるルールです。様々な人々が共生するためには憲法の知識は不可欠です。</p> <p>また、憲法は、司法試験や公務員試験に必ず出題されます。そして勉強すれば確実に得点に結びつけることができる科目ですので司法試験や公務員に挑戦したい学生は是非履修してください。</p>

授業計画			
第1回	ゼミナール説明	第17回	研究発表・討論
第2回	ゼミナール説明	第18回	研究発表・討論
第3回	顔合わせ、自己紹介	第19回	研究発表・討論
第4回	教員による発表デモ	第20回	研究発表・討論
第5回	研究発表・討論	第21回	研究発表・討論
第6回	研究発表・討論	第22回	研究発表・討論
第7回	研究発表・討論	第23回	研究発表・討論
第8回	研究発表・討論	第24回	研究発表・討論
第9回	研究発表・討論	第25回	研究発表・討論
第10回	研究発表・討論	第26回	研究発表・討論
第11回	研究発表・討論	第27回	ゼミナール発表会資料作成
第12回	研究発表・討論	第28回	ゼミナール発表会資料作成
第13回	研究発表・討論	第29回	ゼミナール発表会練習
第14回	研究発表・討論	第30回	ゼミナール発表会練習
第15回	研究発表・討論	第31回	定期試験
第16回	総括	第32回	

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (民法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	<u>木曜日4限</u>	単位数	2単位

ゼミのテーマ	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの到達目標	民法の知識を修得し、問題を検討し解決するための方策を考えることができる。 公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め(指名する)、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅢ(4年次)は、3年次までに修得した民法知識を確認しつつ、民法知識を前提とした問題解決策等を各履修者が自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p><u>本ゼミナールでは、民法知識の確認のため毎回のゼミナール冒頭にミニテストを実施する他、定期的に知識確認テストを実施します。</u></p> <p><u>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上(通常4回程度)ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます(発表内容等に関する教員への相談は歓迎します)。</u></p>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること。 報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法入門、民法総則、物権法履修程度の民法知識があること(実際に履修しているかは問わない)。 債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告(75%)と試験結果(25%)に出席状況、学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。
オフィスアワー	月曜日13:00~14:30・木曜日13:00~14:30
成績評価基準	平成28年度以降入学した学生:秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(50点以下) 平成27年度以前に入学した学生:優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(50点以下)
学生へのメッセージ	<p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回<u>必ず</u>六法、テキストを手元に準備するようにしてください。</p> <p><u>毎回出席することが当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</u></p> <p>原則として就職活動を理由とする欠席は認めません。複数回開催される企業説明会等は本ゼミナールと重複しない開催日に参加してください。個別面接等でやむを得ず欠席する場合には、事前に担当教員に相談してください。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	学習到達度確認テスト④	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (社会心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	社会心理学に関して、世の中にとって新しい知見を探求するための方法を学ぶ。
ゼミの到達目標	社会、人間、動物に関する心理について、研究案を考え、研究を実施し、研究内容を発信できるようになる。すなわち、今までの世の中になかった知見を生み出せるようになる。最終的に、心についての科学的思考力、社会問題の分析・解決能力、わかりやすく論理的に伝える能力を身につけてほしい。
ゼミの概要	近年、心理学は他の学問に大きな影響を与えている。経済学ならば行動経済学、法学ならば法心理学や犯罪心理学、観光学ならば観光心理学が盛んである。しかし、世の中のほとんどの人には、心理学の根本が理解されていない。心理学の根本とは「心について検証するための視点と方法」である。 そこで、このゼミでは心理学の根本を主体的に学ぶ。テーマ決め、研究(実験や調査)の計画立案、結果の分析、5000字以上の論文作成、発表を行う。
授業時間外の学習	ゼミの後には復習をすること(1.0時間程度)。次回のゼミの準備のため、卒業研究に関する資料を読み(1.0時間程度)、課題や発表資料作成に取り組むことが必要である(2.0時間程度)。
履修条件	以下の①と②をともに満たすことが必要である。 ①ゼミを履修する時点で「ゼミナールⅡ(心理学)」の単位を取得していること。または、「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、人間行動学、スポーツ心理学の4科目」から2科目以上の単位が取得済みであること ②ゼミの第1回か第2回に出席すること。両方欠席する場合は瀧澤まで事前に連絡すること
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探さなければならない。
参考文献・資料	松井豊『心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』(河出書房新社, 2010年)
成績評価の方法	定期試験40%、提出物と発表の内容評価40%、取り組み姿勢20%の割合で評価する。事前連絡なしでの欠席は認めない。
オフィスアワー	月曜日の3時限(13:00から14:30)、金曜日の2時限(10:40から12:10)
成績評価基準	平成28(2016)年度以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	心理学における究極の学びは、本などから知識を得ることではありません。心理学の視点や方法を用いて実際に検証し、発信することです。発信する側になることで、自分の理解不足に気付きます。レポート・資料・論文を作成して発信することで、頭だけで考えるよりも論理的に考えることができます。なにより、検証するためには教員や仲間とコミュニケーションをしながら、よりよい方法を模索する必要があります。ゼミ内でもゼミ外でも、人間関係を大事にして学んでください。 教員の専門分野は社会心理学です。そのほか、心理学全般、認知科学、言語学、人間科学、人間関係学にも関心があります。

授業計画			
第1回	ガイダンス、教員の研究紹介	第17回	データ入力、平均値と度数の集計
第2回	心理学の概要：よい研究とは	第18回	統計的検定
第3回	連絡グループ作成、テーマ決め	第19回	図表の作成
第4回	研究案の具体化①：課題設定、仮説と結果予想	第20回	研究メモの作成①：構成と見出し
第5回	研究案の具体化②：実験手続きの具体化	第21回	研究メモの作成②：書くべき内容
第6回	研究案の具体化③：質問紙の作成	第22回	研究メモの仮提出と校正
第7回	研究案の改善①：仮説との関連	第23回	研究メモから論文へ①：文章の書き方
第8回	研究案の改善②：測定方法の欠点と工夫	第24回	研究メモから論文へ②：詳細に、簡潔に
第9回	研究案の改善③：リハーサル的重要性	第25回	論文作成①
第10回	研究の実施①：研究のマナー	第26回	論文作成②
第11回	研究の実施②：研究の倫理、同意の方法	第27回	論文作成③
第12回	中間報告会①：前半組	第28回	最終報告会の準備①
第13回	中間報告会②：後半組	第29回	最終報告会の準備②
第14回	研究計画書の作成	第30回	最終提出と最終報告会①：前半組
第15回	研究計画書の提出	第31回	最終提出と最終報告会②：後半組
第16回	前期のまとめ	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (情報システム管理論ゼミナールⅢ)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。
ゼミの概要	このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. 調査・研究・発表を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、報告書作成能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力、情報処理技術の基本が身に付く。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。 多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠ・Ⅱを修得している学生が望ましい。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題 20% (知識問題・実技問題・レポート)、個人調査研究 40%、試験 40%により判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	毎週 金曜日 10:40~12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	情報(プログラム開発等)やIT関連の仕事に就きたい人にはお勧めです。 大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、情報やIT関連資格取得を目標にしましょう。

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題1と解説 個人各テーマ改善・改良
第2回	最新情報・IT技術、秋田県諸問題のための調査 研究概要（個人テーマ決め）	第18回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題2と解説 個人各テーマ改善・改良
第3回	個人テーマ概要作成、テーマ確定	第19回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題3と解説 個人各テーマ本番発表準備
第4回	情報処理技術の応用実践的知識の習得① （情報セキュリティ管理と技術、資産とリスク） 個人各テーマ調査・研究	第20回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題4と解説 個人各テーマ本番発表準備
第5回	情報処理技術の応用実践的知識の習得② （情報セキュリティに関する知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第21回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題5と解説 個人各テーマ本番発表準備
第6回	情報処理技術の応用実践的知識の習得③ （システム開発概要、ソフトウェア開発手法） 個人各テーマ調査・研究	第22回	ゼミ内各研究発表会
第7回	情報処理技術の応用実践的知識の習得④ （ITに関わるマネジメント） 個人各テーマ調査・研究	第23回	ゼミ内各研究発表会
第8回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑤ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第24回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第9回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑥ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ中間発表準備	第25回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第10回	ITパスポート関連知識問題確認 個人各テーマ中間発表準備	第26回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第11回	日商PC検定実技試験（文書作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第27回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第12回	日商PC検定実技試験（データ活用）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第28回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第13回	日商PC検定実技試験（サイト作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第29回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第14回	ゼミ内各研究中間発表会	第30回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第15回	ゼミ内各研究中間発表会	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（人間科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	人間の「いのち」についてーいのちと経済との関係ー
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、ならびに他人の「いのち」を見つめる視点を獲得し、さらに自分の生き方を見つめる視点を養うことができる。 ・いのちと経済の関係から生ずる諸問題を説明できる。 ・発表、論文のスキルを高めることができる。
ゼミの概要	<p>生きることの根源とされる「いのち」とは、いったい何なのだろうか。また、「いのちに値段はつけられない」と言われたりもするが、実際の所、様々な場面で「いのち」にはその価値・値段がつけられ、いのちが市場経済に巻き込まれている現状がある。</p> <p>このゼミでは、「生」と「死」にまつわるさまざまな問題を、「自己決定の概念」（自分に関連することは自身の意志で決定する）を柱にして考え、併せて、いのちと経済との関連も考えていく。つねに私たちの身近にある生と死についての諸問題を、ゼミ生各自が「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像や様々な資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。また、いのちにまつわる問題を一緒に考え、ディスカッションを積極的に行っていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：（1.5時間程度） 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。</p> <p>復習：（1.5時間程度） 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	数回発表することが義務づけられ、また、ディスカッションの際には積極的に議論に参加することが求められる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出するリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価をください。</p> <p>出席回数が規定に満たない場合は、試験を受けることができない。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p>
オフィスアワー	月曜日 10:40～12:10、火曜日 10:40～12:10
成績評価基準	<p>平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。</p> <p>解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。</p> <p>一緒に人間の問題について考えていこう。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス：ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	人間のいのちをめぐる問題の諸相	第18回	世界にみる死の自己決定
第3回	人間のいのちと金銭をめぐる問題	第19回	死を決定する権利をめぐって
第4回	発表とディスカッション(1)	第20回	発表とディスカッション(5)
第5回	「誕生」にまつわる諸問題	第21回	自己決定を超える問題
第6回	パーソン論の問題	第22回	臓器提供の諸問題
第7回	発表とディスカッション(2)	第23回	海外における臓器売買の事例
第8回	患者と医療従事者の関係	第24回	発表とディスカッション(6)
第9回	インフォームド・コンセントとは	第25回	生と死の判定をめぐって
第10回	発表とディスカッション(3)	第26回	自分のいのちは自分のものか
第11回	自己決定権と「いのち」について	第27回	発表とディスカッション(7)
第12回	生き方の自己決定と尊厳ある死	第28回	資源としての卵子・受精卵・胎児・新生児
第13回	終末期の医療と資源の問題	第29回	資源としてのいのち
第14回	発表とディスカッション(4)	第30回	発表とディスカッション(8)
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（表現文化ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保（はしもと しほ）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	大学生にふさわしい教養を身につけるために、日本やイギリスを中心に様々な文化の歴史や特色について学び、更にそれを考察し、論理的に表現できるようになる。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学作品に触れ、その評論を味わい、理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や絵画、建築といった芸術を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に、講読を行い、評論や論文も読めるような読解力・思考力を涵養します。そして、学んだことや考えたことを自分の言葉で論理的に語るように、プレゼンテーションの訓練、及び論文指導も行います。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. 前期・後期ともグループワークによるプレゼンテーションを行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を必ず行うこと（1～2時間程度）。 3. ゼミで紹介した文学作品や評論を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	昨年度、表現文化ゼミナールを履修して単位を修得した者。または、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「旅と文学」等のいずれかの科目を履修して単位を修得し、かつ前期の履修登録期間中に面談し履修を認めた者。 なお、ゼミの課題や大学行事に真面目に取り組む姿勢が求められます。授業時やその他の時間にセクシャル・ハラスメント等に該当するような言動が見られる学生の履修は絶対に認めません。
テキスト	授業時に資料を配布します。 芥川龍之介『芥川龍之介全集2』（筑摩書房） ホメロス著・松平千秋訳『イリアス』上下巻（岩波書店） シェイクスピア著・中野好夫訳『ジュリアス・シーザー』（岩波書店）他
参考文献・資料	サミュエル・ハンチントン著・鈴木主税訳『文明の衝突』（集英社）・シェイクスピア著・中野好夫訳『筑摩世界文学大系16 シェイクスピアI』青木 保『異文化理解』（岩波書店）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 3. 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。
オフィスアワー	水曜日 14:40～16:10 木曜日 14:30～16:10 ※これ以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	平成28（2016）年度以降に入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27（2015）年度以前に入学した学生 優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	日本や海外の世界遺産を中心に、様々な文化の歴史や特色、異文化理解等について学んでいきます。また、日本やイギリスの文学作品に触れながら、評論や論文の読解、プレゼンテーション能力や表現力も身につけていきましょう。映画化された文学作品を見たり、仲間と語り合いながら、楽しく大学生としての教養を養いましょう。

授業計画		
第1回	表現文化とは何か 世界遺産と日本の文化・文学	第17回 イギリスの歴史と文化 イギリス・ルネッサンスの時代～近代
第2回	世界遺産とは何か ユネスコと世界遺産の創設について	第18回 イギリスの歴史と文化 グランド・ツアーと古典文化
第3回	グループ・ディスカッション 対話力と批判力を高めよう	第19回 ギリシア文化への憧憬 ホメロス『イリアス』を読む
第4回	世界遺産と日本の文化 平泉と仏教文化	第20回 ギリシア文化への憧憬 ホメロス『イリアス』とトロイ戦争
第5回	世界遺産と日本の文化 平泉と『平家物語』	第21回 ギリシア文化への憧憬 ホメロス『イリアス』と表現文化
第6回	世界遺産と日本の文化 平泉と文化の交流	第22回 ギリシア文化への憧憬 ホメロス『イリアス』と映像文化
第7回	世界遺産と日本の文化 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産	第23回 シェイクスピア 『ジュリアス・シーザー』を読む①物語の背景
第8回	世界遺産と日本の文化 芥川龍之介『奉教人の死』他を読む	第24回 シェイクスピア 『ジュリアス・シーザー』を読む②登場人物たち
第9回	世界遺産と日本の文化 キリスト教の受容と表現文化	第25回 シェイクスピア 『ジュリアス・シーザー』を読む③悲劇の構造
第10回	世界遺産と日本の文化 キリスト教の受容と映像文化	第26回 シェイクスピアの文学に関する論文の講読
第11回	グループワークによるプレゼンテーション① 発表・質疑応答・講評ほか	第27回 論理的に表現する方法を学ぼう② 論文作法・表現力について
第12回	グループワークによるプレゼンテーション② 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか	第28回 グループワークによるプレゼンテーション③ 発表・質疑応答・講評ほか
第13回	グループ・ディスカッション 世界遺産の認定と問題点	第29回 グループワークによるプレゼンテーション④ 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか
第14回	論理的に表現する方法を学ぼう① 論文の要件・構成について	第30回 文化に関する論文の講読
第15回	文化に関する文献の講読	第31回 <総括>文化を理解することの意義について
第16回	定期試験	第32回 定期試験

	ゼミナール名	経済理論・計量経済学ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	畠山 光史		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	経済理論および計量経済学の理解を深めることや論理的思考に触れることのできる「経済数学」を学習するゼミナールです。
ゼミの到達目標	1. 学生は、経済数学の知識を習得し、それらを用いて現実経済を数理分析できる。 2. 学生は、論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につけることができる。
ゼミの概要	ゼミナールⅢでは、テキストを利用して経済数学を学習します。さらには、複数回のレポート作成を行うことによって、論理的思考力および表現力を身につけます。
授業時間外の学習	1. 授業前には、教科書の該当箇所必ず目を通し、質問内容を考えてください(1.5時間程度)。 2. 授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください(1.5時間程度)。
履修条件	1. 経済学入門、現代経済入門、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、経済成長論、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学の単位修得済であること。 2. 輪読・発表・レポート作成などに積極的に参画すること。
テキスト	Chiang, Alpha and Kevin Wainwright(2005) <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i> , MacGraw-Hill, New York(小田正雄・高森寛・森崎初雄・森平爽一郎訳『現代経済学の数学基礎(上)(下)』, シーエーピー出版, 2010年)。
参考文献・資料	長沼伸一郎(2016a) 『経済数学の直観的方法—マクロ経済学編』, 講談社ブルーバックス, 講談社。 長沼伸一郎(2016b) 『経済数学の直観的方法—確率統計編』, 講談社ブルーバックス, 講談社。 Angel de la Fuente(2000) <i>Mathematical Methods and Models for Economists</i> , Cambridge University Press, New York. Dowling, T. Edward(2012) <i>Introduction to Mathematical Economics: Third Edition</i> , Schaum's Outline Series, McGraw-Hill, New York.
成績評価の方法	発表(30%), 質疑応答(20%), レポート(50%)で総合評価。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同様に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	月曜日4限, 水曜日4限とします。
成績評価基準	2016年以降に入学した学生: 秀(100~90点), 優(89~80点), 良(79~70点), 可(69~60点), 不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生: 優(100~80点), 良(79~70点), 可(69~60点), 不可(59点以下)
学生へのメッセージ	演習科目は、授業前後の予習・復習を行うとともに、授業に積極的に参加することが重要です。経済数学を学べば論理的思考力が身に付きます。

授業計画			
第1回	前期ガイダンス	第17回	後期ガイダンス, 後期の発表者割当
第2回	発表資料の作成方法, 前期の発表者割当	第18回	経済数学 13(微分法とその比較静学への適用:発表)
第3回	経済数学 1(数理経済学の基礎)	第19回	経済数学 14(微分法とその比較静学への適用:問題演習)
第4回	経済数学 2(経済モデル:発表)	第20回	経済数学 15(一般関数モデルの比較静学分析:発表)
第5回	経済数学 3(経済モデル:問題演習)	第21回	経済数学 16(一般関数モデルの比較静学分析:問題演習)
第6回	経済数学 4(経済学における均衡分析:発表)	第22回	経済数学 17(最適化:発表)
第7回	経済数学 5(経済学における均衡分析:問題演習)	第23回	経済数学 18(最適化:問題演習)
第8回	経済数学 6(線形モデルと行列代数の基礎:発表)	第24回	経済数学 19(指数関数と対数関数:発表)
第9回	経済数学 7(線形モデルと行列代数の基礎:問題演習)	第25回	経済数学 20(指数関数と対数関数:問題演習)
第10回	経済数学 8(線形モデルと行列代数の応用:発表)	第26回	経済数学 21(選択変数が2つ以上ある場合:発表)
第11回	経済数学 9(線形モデルと行列代数の応用:問題演習)	第27回	経済数学 22(選択変数が2つ以上ある場合:問題演習)
第12回	経済数学 10(比較静学と導関数の概念:発表)	第28回	経済数学 23(等式制約のもとでの最適化:発表)
第13回	経済数学 11(比較静学と導関数の概念:問題演習)	第29回	経済数学 24(等式制約のもとでの最適化:問題演習)
第14回	経済数学 12(前期のまとめ:レポート作成)	第30回	経済数学 25(後期のまとめ:レポート作成)
第15回	中間レポート 1(学生による発表)	第31回	期末レポート 1(学生による発表)
第16回	中間レポート 2(教員によるフィードバック)	第32回	期末レポート 2(教員によるフィードバック)

	ゼミナール名	環境学ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	<p>1. 環境と人間社会の持続可能性を考える。</p> <p>2. 環境、農林漁業、食料・食品に関する卒業論文を作成する。</p>
ゼミの到達目標	<p>食に関する問題、エネルギー問題、生物多様性に関する問題など、多様な視点から環境や農業・林業に関するテーマを調査・議論し、環境に対する理解を深めます。</p> <p>ゼミは学生の皆さんが作りあげることが基本と考えていますので、教員が教壇に立って講義を行うことはあまりありません。他のメンバーの発表をよく聴き、学び、質問や意見を述べる力を養ってください。また、メンバー相互の議論によって知恵と理解力を高め、教員に立ち向かってほしいと思っています。</p>
ゼミの概要	<p>環境学ゼミナールでは、地球環境の保全を、自然環境と人間社会の双方の立場から考え、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。さまざまな情報を収集、分析し、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを重視しています。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。フィールドワークによって自然界や社会における観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①専門書輪読、②研究活動(卒業論文)の2点となっています。①輪読では、環境学、農業、自然風景などの基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。4年生のゼミでは、柴山盛生・遠山紘司著『問題解決の進め方』を輪読します。この教科書では、卒業論文の執筆の方法だけでなく、社会に出たときに役立つものの見方、考え方を学ぶことができます。また、②研究活動では、各人の興味関心に応じた卒業論文を執筆し、年度末までに完成させます。卒業論文は、教員が何度も添削し、質の高い卒業論文を仕上げます。卒業論文は、大学4年間の学修の集大成です。皆さん自身が大学時代に何を学び、どのような成長を遂げたか、卒業論文を執筆することで実現されるでしょう。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や知恵、論文の書き方、発表の方法を学んでください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。また、環境学ゼミナールでは、ゼミナールの時間帯以外にもゼミを行う場合があることを留意ください。</p>
履修条件	<p>次の①・②の条件のうち、少なくとも一方を満たす者とします。</p> <p>① 環境学ゼミナールⅡを履修済みの者</p> <p>② 4月12日までに村中研究室を個別に訪問し、教員からゼミ所属の承諾を得た者。ただし、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、地球環境学、地域フィールドワークの中から3科目6単位以上を履修済みの者に限る</p>
テキスト	秋光淳生・柴山盛生『問題解決の進め方 新訂』(放送大学教材)(予定)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>卒業論文、卒業論文指導、研究発表(70%)、輪読(20%)、提出物・試験(10%)</p> <p>卒業論文の執筆が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月中旬とします。それまでに、教員の添削指導を受け、教員による「これで完成」という宣言を1月10日までに取得してください。したがって、卒業論文の初稿を遅くとも10月上旬に提出する必要があります。研究成果は、北ブロ、学内大会もしくは論文コンクールのいずれかで発表してもらいます。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40~16:10、水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。</p>

授業計画（環境学ゼミナールⅢ）			
第1回	ガイダンス ゼミナールでの取組概要、教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	卒業論文⑤ 論文紹介（グループA） 卒業論文の進捗状況確認
第2回	フィールドワーク① 自然・社会現象を観察・記録する 自然・社会現象から問題を見出す	第18回	卒業論文⑥ 論文紹介（グループB） 卒業論文の進捗状況確認
第3回	フィールドワーク② 資料や文献に学ぶ 文献の中から問題を発見する	第19回	輪読⑧ 「第8章 学習記録と振り返り」
第4回	卒業論文① 第1次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第20回	輪読⑨ 「第9章 発想を広げる」
第5回	輪読① 「第1章 問題とは」	第21回	輪読⑩ 「第10章 組織での進め方」
第6回	輪読② 「第2章 問題を見つける」	第22回	輪読⑪ 「第11章 組織での進め方（2）」
第7回	フィールドワーク③ 問題の本質を見極める 問題解決に向けて必要な観察とは何か	第23回	卒業論文⑦ 中間報告
第8回	輪読③ 「第3章 目標を設定する」	第24回	輪読⑫ 「第12章 組織での進め方（3）」
第9回	輪読④ 「第4章 情報を収集して整理する」	第25回	卒業論文⑧ 卒業論文指導
第10回	卒業論文② 第2次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第26回	輪読⑬ 「第13章 集団の意思決定とコミュニケーション」
第11回	輪読⑤ 「第5章 数値情報を扱う」	第27回	輪読⑭ 「第14章 解決策を実行する」
第12回	卒業論文③ 専門書紹介（グループA）	第28回	輪読⑮ 「第15章 評価する」
第13回	卒業論文④ 専門書紹介（グループB）	第29回	卒業論文⑨ 研究発表（グループA）
第14回	輪読⑥ 「第6章 図解化して見る」	第30回	卒業論文⑩ 研究発表（グループB）
第15回	輪読⑦ 「第7章 分析的に考える」	第31回	卒業論文⑪ 研究発表（グループC）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (キャリアプランニングⅢ)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	キャリアプランニングの考え方と重要性を理解し、卒業後観光系企業で職務を蓄積していく中、その手法の実践が出来るようになる。
ゼミの到達目標	社会に巣立つにあたって基礎的なビジネスのルールやマナー等を会得し、スムーズにキャリアの蓄積を開始できる状態になる。また進路先企業・業界の動向や競争環境、企業戦略を調査、研究し、卒業後仕事を行なうに資する知識や考え方が身につく。
ゼミの概要	終身雇用制度が定着していた時代、個人のキャリアは会社の人事に左右されていたと言って過言ではない。しかし、バブル経済が崩壊して以降その制度は崩れ、雇用体系が多様化し、会社がキャリアを与えてくれることが普通ではなくなり、昨今ではさらにそれが加速されてきている。今や自分で自分のキャリアを築いていかなければならない時代となった。このゼミでは充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリア・プランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ実際に目標と計画を立ててみることを考えている。前期ではキャリアの入り口である観光企業でのビジネスマナー等基礎的な能力や態度の涵養に軸足を置き、後期では自身の進路である観光企業ならびにその業界の状況や将来を調査、研究し、その中でキャリアプランニングが出来るようチャレンジしてみる。
授業時間外の学習	前期はビジネスマナー等演習の復習、後期は進路先観光企業やその業界について調査・研究発表が出来るよう日々情報の収集を行なうこと(1.5時間程度)。
履修条件	原則、キャリアプランニングⅡを履修済であること。また、ホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光系企業に進路を定め、現に就職活動を行なっている4年生
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢 50%とし総合的に評価する。
オフィスアワー	水曜日：9:00-11:30、木曜日：9:00-11:30
成績評価基準	2016年度以降入学の学生：秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 2015年度以前に入学の学生：優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等の観光企業に進路を定めた学生の皆さん、いま不安や心配を抱えながら就職活動にあたっていることと思います。ただ、就職することが目標ではなく、節目の出発点であるに過ぎません。キャリアつまり仕事に焦点を当てた人生の始まりです。キャリアの入り口にあたり、観光企業での基本的なビジネスのルールやマナーについては是非会得して社会に巣立って下さい。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	キャリアプランニングの重要性
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは	第18回	キャリアプランニングの方法
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	人生の振り返り
第4回	キャリアの入口にあたって① ES	第20回	自分の望みを知る、理想の人生設計
第5回	キャリアの入口にあたって② 個人面接演習 a	第21回	観光企業担当者の講演①
第6回	キャリアの入口にあたって③ 個人面接演習 b	第22回	観光企業担当者の講演②
第7回	キャリアの入口にあたって④ 敬語の使い方	第23回	講演①講演②に基づくディスカッション
第8回	キャリアの入口にあたって⑤ グループ面接演習 a	第24回	就職先業界の深掘り調査と研究①
第9回	キャリアの入口にあたって⑥ グループ面接演習 b	第25回	就職先業界の深掘り調査と研究② 報告会
第10回	キャリアの入口にあたって⑦ ビジネスマナー a	第26回	就職先業界の深掘り調査と研究③ 報告会
第11回	キャリアの入口にあたって⑧ ビジネスマナー b	第27回	就職先業界の深掘り調査と研究④ 報告会
第12回	キャリアの入口にあたって⑨ 接客の五原則	第28回	キャリアの入口にあたって⑫ ビジネス文書、ビジネスメールの基礎
第13回	キャリアの入口にあたって⑩ グループワーク a	第29回	観光企業の現場を想定したケーススタディー①
第14回	キャリアの入口にあたって⑪ グループワーク b	第30回	観光企業の現場を想定したケーススタディー②
第15回	まとめ	第31回	まとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験